永久保存版！

相生山緑地オアシスの森くらぶ
結成10周年記念　特集号

オアシスの森くらぶ１０周年によせて

会長　大舘　学

「相生山緑地オアシスの森くらぶ」が、ここ相生山の里山で産声を上げてから10年の月日を数えることになりました。活動の趣旨に賛同して共に汗を流した多くの皆様に感謝感謝の気持ちでいっぱいです。

都市公園内の草木を管理者である土木事務所以外の人たちが伐採することについて、くらぶ発足当時は確たる決まりも無く、公園利用者の理解もいまいちの感がありました。しかし、「緑のパートナー」の制度ができ、また何よりもこうしたボランティアによる里山保全が全国的にも盛んになり、最近では活動中の私たちに「ご苦労様です。」といったねぎらいの言葉をかけてくださる方々も増えてきています。

植生管理活動をはじめとして、どんぐり祭りや各種講座など私たちの活動の門戸は常に一般に開かれています。相生山緑地オアシスの森をより親しみのもてる空間とするために会員一同さらに頑張っていきますので、多くの皆様のご理解・ご協力、そして協働をお願いいたします。

トンボ池をつくる前

トンボ池整備中

トンボ池完成！

現在のトンボ池

市民による森づくり活動の「原点」としての相生山

岐阜大学名誉教授　林　進

相生山の森づくりが始まった頃は、市民の手による森づくり活動は、名古屋市内ではなかった。行政も慣れていないため、計画から整備までのプロセスの組み立ても、私たちの意見に委ねられたことが、その間の事情を物語っている。

実際市民活動でどれだけのことができるのかを実証する事例もなく、行政と私たちとの間に築かれる「信頼関係」だけが頼りであったことは事実である。私の場合には、研究室の学生達の研究フィールドを設定して、市民活動に「科学の目」を注入し、社会的な信頼を築くなどの工夫も行った。このことは同時に学生達が社会活動に参加するきっかけともなり、勉学の幅が広がる効果も発揮した。

相生山は結構広く、いくつも森づくりの課題設定ができたことは、その後市内で広がる市民活動に対して、絶好の技術指針や活動計画内容を提示することができたことも、重要な成果であったと思う。私にとっても、また名古屋市にとっても、相生山は原点であり、不易の価値を持つものであると、私は確信している。もしも名古屋市における森づくり市民活動が停滞したり、方向を定めがたくなったときには、いつでもこの「原点」に立ち戻ってほしいと思う。行政に対しても「相生山の価値だけは忘れないでほしい」と、強く訴えておきたい。

相生山で発見した財産の中に、「ツツジの園」がある。かつてはアカマツと対をなし、コバノミツバツツジが山を彩っていたであろうが、長い間放置されたことにより、その風景は失われていた。それを発掘し、ツツジの風景を取り戻そうと、毎年の活動テーマに「ツツジの園づくり」が設定され、その結果美しい春先の森風景ができあがった。丁寧に灌木を刈り分けるなどの作業は、市民活動でなければできないことであった。「見てわかりやすい」成果として、私はこの事実を後世に語り継いでいってほしいと願っている。

（2008.3.22発行）